

⑪【複数年度(2年目)】高千穂町の観光交通分散と回遊形成に向けた社会実験(宮崎県高千穂町)

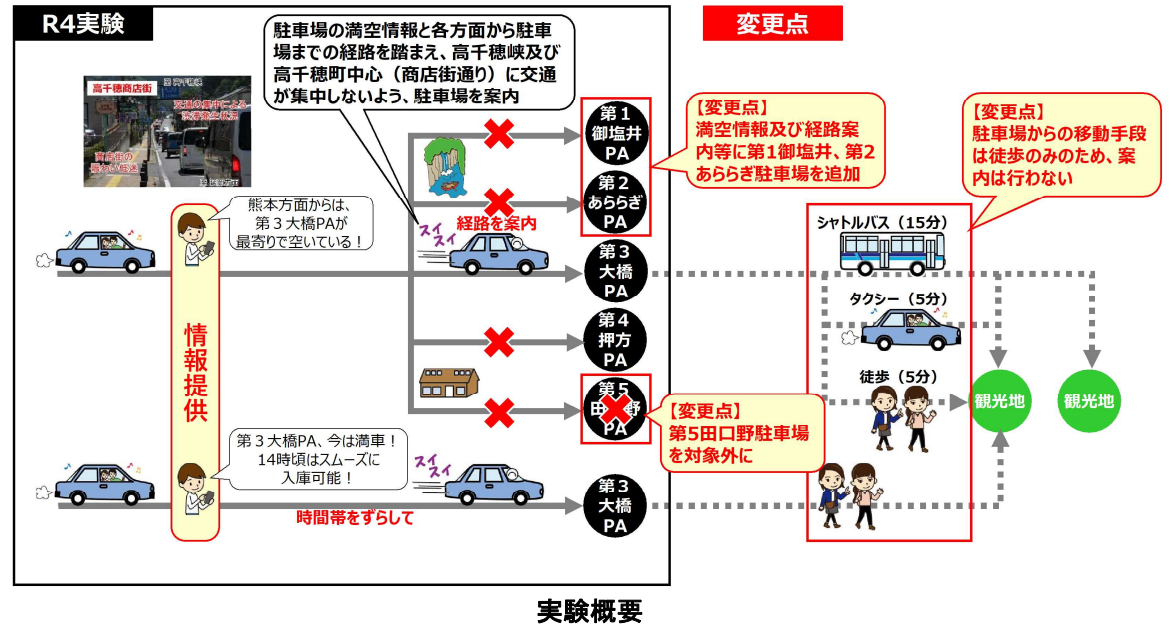
1. 実験概要、留意すべき項目

- 観光地における乗り継ぎ拠点整備、新たなモビリティ導入、観光地・駐車場情報提供による交通インフラ整備、情報提供のあり方にかかる検証を行う。
- AIカメラを活用し、渋滞情報をリアルタイムに提供することによる観光地の交通需要マネジメントに結びつく実験となっていること。

2. 実験内容、実験結果

① AIを活用した交通需要マネジメント

- ⇒アクセス道路上では宮崎県が約7割を占めるが、町内駐車場では宮崎県に次いで福岡県、熊本県の来訪者が多いことを確認
- ⇒観光地(高千穂峡)の被災もあり、実験期間中の国道218号の交通量(延岡方面)は令和3年度と比べ約1割少なく、実駐車台数も過年度と比べ約3割少ない状況
- ⇒駐車場に関する情報提供の利用率は、令和4年度実験時は約1割と大きく減少。これは被災状況を考慮して事前広報を実施していないことが要因と考えられ、広報活動の重要性を再認識



3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
道路整備が進む中、東西方向に広域移動する人が立ち寄ってくれる工夫をすることで、従来は寄るつもりではない方も来てくれるのではないかと。	今後の観光活性化の施策検討時に考慮する。
中央道が部分開通したことで、福岡方面からの観光客が阿蘇周辺から更に足を延ばしてもらえるような情報(夜神楽等)を発信し、他地域の人が知らない文化をセットでPRするともっと良くなる。	今後の観光活性化の施策検討時に考慮する。
駐車場は全て有料とした方が、うろつき交通が発生せず、迷わないので良い。	高千穂町料金徴収PTによる駐車場運用の検討時に考慮する。
福岡等では無料の駐車場は少なく、有料化が進む観光地が多いので、周辺の駐車場が一体となり有料化し、同金額にした方が良い。	高千穂町料金徴収PTによる駐車場運用の検討時に考慮する。

⑪【複数年度(2年目)】高千穂町の観光交通分散と回遊形成に向けた社会実験(宮崎県高千穂町)

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
駐車場に関する情報提供の利用率は、令和4年度実験時は約1割と大きく減少した。	「どこで」「どのように」情報提供すると見てもらえるか等、情報提供のあり方を検討する。
情報提供システムにおいて、観光客の集中や地形的条件に伴う通信環境の悪さにより、画像取得エラーや再通信動作の発生による電力消費の増加が発生した。	駐車需要が多く、渓谷内で電波が弱い駐車場を対象に、優先によるAIを活用した情報収集を実施(改善確認後、他地点に展開)する。
高低差のある高千穂峡の移動ニーズを把握する。	遊歩道再生後に「第2あららぎ駐車場～第3大橋駐車場間での運行実験」を行い、利用者ニーズ等を確認する。
高千穂料金徴収PTの検討熟度を高める。	高千穂料金徴収PTによるシャトルバス運行検討の熟度を高め、実証実験を通じて検証する。

5. 今後のスケジュール

- R5～R6年度 情報提供のあり方検討、通信環境の整備
- R7年度 通信環境の整備、AIカメラ導入、周知・利用促進に向けた広報活動、情報提供システムの改修
- R8年度 AIカメラ導入、周知・利用促進に向けた広報活動、情報提供システムの改修、運用・管理体制構築
- R9年度以降 AIカメラ導入、周知・利用促進に向けた広報活動、情報提供システムの改修、運用・管理体制構築、収集データ利活用、各駐車場運用・整備

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ AIカメラを用いた交通需要マネジメントについては、数か所のテスト稼働を行い、段階的に導入することが望ましい。
- ・ 地域関係者の協力は不可欠であり、各々の動きと連携が重要であることから、将来像とロードマップの早期共有を図ることが望ましい。